明るい選挙の広報誌

私たちの広場

2004 8月号

特集◆

「若い世代」で組織づくりを

（高知県大野見村）

No.275

財団法人 明るい選挙推進協会

平成16年8月2日発行　通巻755号

寄稿

政党政治の危機

NHK部外解説委員
中島 勝 さん

プロフィール **なかじま・まさる**

昭和15年生まれ。昭和40年NHK入局。報道局政治部記者として、自民党、総理大臣官邸、野党などの取材にあたる。平成4年政治部長、平成8年解説委員長、平成12年退職。現在、NHK部外解説委員として活躍。

私は日本の政党政治は危機の時代を迎えつつあると考えています。戦前の政党政治が国民の信頼を失って軍部の力に屈服したことを忘れてはいけません。まだ手遅れではありません。今大事なのは国民が政党の発展に手を貸すような意識改革だと思います。

政党不信

国民の政党への信頼が低いことは各種の世論調査で「支持政党なし」と回答する人の多さで分かります。NHKが毎月実施している調査では「支持政党なし」は全体の五〇%、二人に一人というのが大まかな傾向です。時に六〇%に達することもあります。さすがに国政選挙の時点では「支持政党なし」は少し減りますが、選挙が終わるとまもなく元に戻ってしまいます。こうした傾向が何年にもわたって続いています。残念ながら政党不信は定着しつつあると判断するしかありません。これだけ政党への信頼が低下していると各種の選挙の投票率が下がるのは避けられません。投票率向上のために多数の方が努力されていることに敬意を表しますが、現実はこの政党不信を前になかなか成果を上げにくいのが実情だと思います。

政党は議会制民主主義の不可欠の要素

議会制民主主義は主権者である国民が議員を選挙で選ぶことによって成り立っています。日本では議会の多数派が政府を作

ります。だから議員を選ぶ選挙は候補者個人の能力や人柄だけでなくどのような多数派が議会で成立するかが重要になります。仮に政党が存在しなくて無所属の候補者ばかりだとします。投票の結果どういう多数派が形成され誰が総理大臣になるのか見当がつきません。まさにこの点に政党の存在意義があります。政党は国民の意思をまとめて議会に反映させる役割を果たしています。政党は議会制民主主義の不可欠の要素です。政党を抜きにして議会制民主主義はありえないことを強調したいと思います。そして衆参両院の議員選挙も政党本位の選挙制度を取り入れています。この政党本位の選挙制度によって政党の近代化が進み政党への参加者や支援者が増えて政党の組織が広がりと厚みを増すことが期待されたのですが、現実は必ずしもそうなっていません。

地方選挙の政党離れ

国政選挙は選挙制度が政党本位になっていますから否応なしに政党が選挙戦の主役になっています。しかし地方選挙はかなり様子が違っています。二〇〇三年の統一地方選挙を振り返ってみると政党の存在があまり感じられませんでした。特に首長選挙では政党の公認や推薦を受けない候補者の善戦が目立ちました。こうした地方選挙の政党離れをめぐっては様々な意見があります。一党一派の立場にとらわれないで住民全体の意向に沿って地方自治体を運営するなら構わないとする意見もあります。確かに一理ありますが、私は政党が地方選挙で活躍しなくて一体全体政党の発展など期待出来るのか大変疑問に思います。やはり地方選挙で政党離れが進んでいるのは政党の衰退を示す有力な証拠ではないかと危惧します。まず足元の選挙である地方選挙から地固めをするのが政党の基本でしょう。まして地方は目下大改革が進行中で今後ますます地方政治の比重は高まります。その地方政治に政党が存在感を示せないような状況は政党政治の危機です。

国民の意識改革が必要

そこで現状をどう打開するかです。日本には昔から「党利党略」とか「一党一派に偏している」といった言い方があります。この場合、党という言葉はあまり良い意味では使われていません。このことからも伺えるように国民の意識の中には政党をマイナスのイメージでとらえる偏見が強く残っているように思います。こうした偏見を捨てて政党をプラスの存在としてとらえる国民の意識改革が大事だと痛感しています。教育の現場でも政党をきちんと取り上げて政党の意義を若い人たちに理解してもらうことが重要です。床屋政談という言葉が示すように多くの人は政治に関心を持っているし一通りの議論も出来るのです。TVやインターネットの発達で政治家の言動が国民に届く機会も多くなっています。けれども国民が受身のままワイドショー政治の見物人にとどまっている限り政党の発展は望めません。大事なのは参加です。国民が政治家を育て政党を育てる意識を持って応分の支援をする、出来れば積極的に政党活動に参加する、こうした国民の側の意識改革が政党を大きく変えるはずです。ともかく社会全体として政党に真正面からむきあって政党について真剣に議論することが第一歩になると思います。

特集

「若い世代」で組織づくりを

白バラレポート

高知県のほぼ中央に位置する高岡郡大野見村。清流として全国にその名を知られる四万十川源流の里はみどりにあふれ、村内には三つの沈下橋がある。人口は約一、七〇〇人。特産品は七面鳥、ショウガ、イチゴなど。本誌二七三号で、「わくわく村の村長選挙」の模様を紹介したが、今回は、二〇～四〇歳代の人たちが活動を担う大野見村明るい選挙推進協議会の活動をご紹介する。

※沈下橋　大水のときに水面下に沈むように作られた橋です。流木などがひっかかって壊れるのを防ぐため欄干がありません。

誘われて、明推協委員に

大野見村明るい選挙推進協議会が、六名のメンバーで誕生したのは二〇〇三年四月のことだった。それまでは若い人たちに投票立会人を依頼し、婦人会を中心に三ない運動を展開し、老人会からは明るい選挙推進協会主催のシルバーリーダー研修会に参加するなどしていたが、県選挙管理委員会から明推協の設置を勧められ、大野見村議会事務局長で村選挙管理委員会書記長の下元四郎さんと村選管書記の中内ともみさんが相談して、「ボランティアとして、選管と一緒に活動してくれそうな若い世代の人たちに声をかけた。まず、明るい選挙推進協会主催の青年リーダー研修会や女性リーダー研修会の参加者にその経験を生かしてもらうことを考えた。村明推協会長の戸田善章さんもその一人だった。

「誘われて、協力できることなら協力しようと入りましたが、用事でちょうど欠席したとき、会長に推されました。あまりに簡単に引き受けてしまったかと思っていますが、事務局がしっかりしていますので、事務局の提案に協力しています」

選管書記の中内さんと子どもたち

副会長の松岡牧さん、そして植田知子さんも女性リーダー研修会に参加していた。

「私は、みなさんの後をついています。投票は行っていますが、知らなかったことがたくさんあって、教えていただき、私自身が勉強になっています」

六月一日から新たにメンバーに加わった中内伸也さんも、青年リーダー研修会の経験者だ。

「家で選挙の話はしょっちゅう聞かされていました。私が参加した広島での青年リーダー研修会では大学生や若い人たちが多かったのですが、考え方がしっかりしていて、交流の機会が自分にプラスになりました。メンバーは知っている人ばかりなの

で、活動はしやすいと思います」

実は、中内伸也さんと中内ともみさんはご夫婦。ともみさんが直接の啓発担当から外れたのを機に委員に加わった。メンバーは入れ代わりがあり、現在は五名。もう一人の西森誠さんは仕事で欠席だった。五名の年齢は、二九歳から四一歳まで。勤め先は、郵便局、美容室、特別養護老人ホーム、民間会社とさまざまで、選管事務局からの誘いを受けて、自ら活動に参加しようと思った人たちだ。

「必要に応じて協議会を開催してきましたが、会長は郵便局の職員ですので、会長に話をすると、全員に連絡をしてくれます」

選挙の話を聞く子どもたち

中学校で模擬投票

大野見村明推協が設立される前年、シルバーリーダー研修会の参加者が研修会の話し合いで、中学校での模擬投票の事例を知り、選管の中内さんに「大野見でもできないか」と提案。校長会にはかって、中学三年生の社会科・公民の授業で模擬投票が実現した。

「県選管に相談すると、県のモデル事業としてやってみないかといわれて、選管事務局で実行しました」

模擬投票は授業の五日前を告示日とし、学校の玄関にポスター掲示板と告示板を設置。選管事務局から生徒の自宅に投票所入場券と選挙公報を郵送した。一学年の生徒数は一五〜一七名なので、きめ細かな対応が可能だ。

「家に投票所入場券が届くことは事前に先生から話していただき、入場券在中と書いて郵送しました」

その選挙公報がユニークで、「あらせ鮎子」「七面とりお」という架空の候補者が「蛍村の村長選挙」に立候補という想定。蛍、七面鳥、鮎と大野見村にかかわりの深いものを取り入れた。

「選挙公報は、社会担当の先生が考えてくださいました。当日は、入場券を忘れてくる生徒もいることを考えて、忘れても本人確認ができれば投票ができること、先生にはわざと無効票を書いていただき、こういう投票は無効になるという説明もしました」

昨年は、明推協委員が投票管理者、立会人を務めました。

生徒は、授業開始のチャイムが鳴ると同時に模擬投票を開始。投票と開票で約二〇分、その後、選挙についての講義を行ったが、どう受け止められているかの反応は見えにくかった。

「感想文を県の明るい選挙推進の作文コンクールに応募したら入選して、審査員から『大野見中学校の模擬投票で経験したことが作文に表れている』という評を受け、やってよかったと思いました。模擬投票の感想文は、毎年入選しています」

今年は、参院選直後の七月一三日に実施しました。

一昨年は、鮎子さんが当選、昨年はとりおさんが当選したそうで、今年は七月に実施の予定だ。模擬投票の授業を受けた生徒たちが卒業するときには、「あと五年たち、二〇歳を迎えると選挙権ができます」という「卒業おめでとうカード」を発送している。

そのほか、初年度の活動としては、昨年一一月の県知事選挙を前に村の産業祭で、明推協委員が「めいすいくん」の着ぐるみを着て風船を配り、投票参加の呼びかけをした。衆議院選挙では明推協委員が明推協のスタッフジャンパーを着て、村内を車で啓発をしてまわった。明るい選挙推進啓発ポスターや標語、作文の第一次審査も行っている。「選ぶのは、けっこう疲れますよ」

そして今年二月には、第一回目の「わくわく村の村長選挙」を行った。

二回目の「わくわく広場の模擬投票」は紙芝居から

わくわく広場は、地域住民と交流しながら子どもの世界を広げようと村教育委員会が実施している事業です。

六月九日の放課後、「わくわく広場」に登録した大野見小学校の一年生から三年生まで一九名が村役場二階の会議室に集まってきた。「めいすい君」が玄関でお出迎え。みんな元気に会議室に入ってくる。

今回は、「啓発ビデオは内容がむずかしすぎる」という前回の反省にたって、紙芝居を制作した。ストーリーは県から配布された漫画の啓発

子どもたちを玄関で出迎える
めいすいくんの中は、戸田さん

紙芝居を熱演

冊子からとり、むずかしい言葉は省略したり、やさしく表現し直し、下絵は選管の臨時職員、色ぬりは明推協委員が担当した。中心になったのは副会長の松岡さんで、二〇数枚の紙芝居を完成させた。

「今年は、参議院選挙しか予定されていません。選挙と関係ない時期では意味がないと考え、教育委員会に相談すると第一回の計画が決まっていなかったので、六月をリクエストしました。前回から半年も間がなくて、実はぶっつけ本番です。前回も子どもたちがどんな反応を示すかドキドキでしたが、今回も紙芝居にどんな反応があるかドキドキしています」

明推協委員も早めに集まり、紙芝居の下読みをしたり、風船を膨らませたりと、準備に忙しい。

三時半、「わくわく広場」の二〇〇四年度の開所式だ。教育委員会地域教育指導主事の山崎ひとしさんのあいさつの後、その日のテーマ「せんきょってなぁに」に入った。講師役の中内ともみさんが登場して、明推協委員を紹介する。紙芝居担当の松岡さんと植田さんが前に立つと、「ママが描いた紙芝居だ！」と声援が飛ぶ。

タイトルは『投票に行こう』。選挙が近づいたある日。公園での家族の会話。見知らぬ男が一人ベンチに。天気がよかったら遊びに行く、一票で何ができるのという話に、その男が発言。一票が集まって政治を動かし、みんなが住みやすい世の中をつくる。教育、医療、福祉……と政治は私たちの生活に密着している。政治に参加できる機会が選挙。忘れずに投票に行きましょう、と選挙の大切さを訴える内容だ。

紙芝居の後、子どもたちに投票を呼びかけるメッセージを短冊に書いてもらった。「選挙にいって、遊びにいこう」「家族のため、みんなのため、投票しましょう」「選挙には必ず行きましょう」「子どものために投票してください」など。短冊を読んで、明推協委員は感心しきり。

メッセージを短冊に書かせる

続いて、わくわく村の村長選挙に移る。前回は立候補者がいるかと心配したそうだが、六人が立候補。今回はさらに激戦で、立候補したのは男女半々で八人。「私が村長になったら」と一人ひとりが演説する。

「仲よく、けんかのない村にしたいです」「あいさつができる村にしたいです」「みんなが楽しく暮らせる村にしたいです」「明るくて、元気のいい村にしたいと思います」「プールで泳げる村にしたいです」

素直、純真で、元気のいい子どもたち。全員が順番に投票へ。「自分の名前、書いてもいいの？」「いいよ」「だれが村長さんになるか、楽しみだね」

投票結果は、六票を獲得した吉岡君が当選して、「みんなが笑顔で、楽しく暮らせる村にしたいと思います」とあいさつをした。

「二〇歳になったら、忘れずに投票してね。では風船を飛ばします……」

風船は一〇〇個。それぞれが自分の書いた短冊をつけた風船を持って、玄関前に出る。梅雨の合間の曇り空。

「選挙に行こう！」の子どもたちの大歓声とともに、風船がゆっくり空に舞い上がっていく。

小学校低学年にはテーマがむずかしいのではと思ったが、「わくわく村の村長選挙」は身近に感じていたようだ。

「上の子は二回目でしたが、結構楽しんでいました。内容を少しずつ変えていったら、これからも年に一回できるのではないかと思います。下の子は立候補したので、びっくりしました。親にも見にきてもらえたらいいですね」と二人のお子さんが参加した役場職員。

「子どもたちが少しでも関心をもってくれればいいですね」「試行錯誤をしながら、子どもたちにわかってもらえるものにしていきたいですね」とみなさん。

若い人たちに広がる活動を

会長の戸田さんは、できるだけ若い人たちを誘いたいと考えている。

「若い人たちの投票率が低いので、若い人たちを少しでも携わらせるようにもっていけたらと思います。若い人が一人でも動いてくれたら、友達同士少しずつ関心が広がっていくのではないかと思います。活動はこちらから提案して、新しいものをつ

くっていくことができればと思っています」

定期的に集まる日を決めてはいないが、多いときは月に一、二回顔を合わせてきた。活動などの打ち合わせは夜七時からだ。

「懇親会をやろうといいながらまだ一回も開いていません。みんな顔見知りで、集まりのたびに本音が出ますから、その必要がないのではということはありますね。ただ、一人に負担があまりかからないように、委員は八人から一〇人はいたほうがいいと思います」

仕事が忙しい人、村外に働きに出て帰りが遅い人……など、適任者を探すのはなかなかたいへんらしい。中内さんは、選挙啓発を八年間担当してきた。

「気軽に話せて、提案できる組織をつくりたいですね。村の高齢化率は四〇%近いですが、中心の世代から選挙に行こうと呼びかけてくれたら、意識が違ってくるかなと思います。将来の有権者育成事業に力を入れてきましたが、選挙時以外の活動を増やして、会社員、自営業などさまざまな職場での投票に関する意識の向上ができればと思います。事務局はサポートで、委員自身が提案できる組織になったらいいなと思っています」

風船に短冊をつける

書記長の下元さんも、明推協委員への期待は大きい。

「選挙啓発にしても投票管理者にしても、期待しています。力を貸していただき、力を合わせていきたいと思います」

大野見村では投票所に行けない高齢者が増えているため、今回の参議院選では郵便投票の周知に力を入れる。投票所の雰囲気を和らげるために、音楽を流すことも計画している。

また今回から、期日前投票の投票管理者は明推協委員が交代で務めることに決めた。そうすれば、選挙の知識も身につくというねらいもある。委員のみなさんは、「身分証明」のスタッフカードを身につけて、揃いのスタッフTシャツで投票参加も訴える。

取材の日、いっせいに空高く飛んでいった風船……。その光景に、投票率の向上を願った。

（記　清原れい子）

「選挙人名簿」

Q 選挙人名簿に登録されていないと、投票ができないと聞きましたが、「選挙人名簿」とはどのようなものですか。

A 選挙人名簿は、あらかじめ選挙権を持つ人を調査、登録しておくことで、投票を円滑に行うことや、二重投票などを防止するための大切な制度です。

名簿への登録は、市区町村の選挙管理委員会が調整して登録しますが、登録されるためには、その市区町村内に住所をもつ満二〇歳以上の日本国民で、その住民票が作成された日から引き続き三カ月以上その市区町村の住民基本台帳に記録されていること、が必要です。

登録は毎年三月、六月、九月、一二月の一日を基準日に、登録月の二日に行われますが、このほか選挙時にも行われます。また資格があるにもかかわらず登録もれがわかった場合は補正登録もします。

選挙人名簿は、一度有効に名簿に登録されると、永久に有効となりますが、①死亡、又は日本国籍を喪失したとき、②他の市町村へ転出してから四カ月を経過したとき、③登録時に登録されるべきでない人を間違って登録したとき、は名簿から抹消されます。

なお、選挙人名簿の正確さを期すために定時登録や選挙時登録の場合にそれぞれ決められた期間中に縦覧できるようになっています。また、選挙人名簿の抄本は選挙事務に支障がある期間を除いて常に閲覧できるようになっています。

Q 外国に住んでいる場合はどうなりますか。

A 国外に在住する日本国民の場合は、「在外選挙人名簿」に登録されることで、国政選挙（衆議院及び参議院比例代表選出議員選挙）の投票ができます。

登録されるためには、満二〇歳以上の日本国民で、引き続き三カ月以上その国の領事官の管轄区域内に住所を有していることが必要です。

在外選挙人名簿への登録は、選挙人名簿とは異なり、申請に基づいて随時行われます。

このため申請は、申請者本人又は同居家族等を通じて、日本国旅券と住所を確認できる文書を用意して、在外公館の領事官を経由して、申請者の最終住所地の市区町村の選挙管理委員会に行います。

登録されると、選挙管理委員会から申請者に在外選挙人証が交付されるので、選挙の際にこの在外選挙人証を提示することで、国政選挙の投票ができます。

トークセッション

たまには話そう！政治のこと、選挙のこと、未来のこと

二〇代の若者たちは、仲間同志で、政治のことや選挙のことや未来のことを話し合う機会は、そうそうありません。だけど、話してみたら、それぞれさまざまな考えではありますが、しっかりした考えを持っています。協会が作成した啓発ビデオの中から若者たちの座談会を誌上再現してみました。あなたのまちでも、二一世紀を支えていく若者たちと話してみませんか。

出席者は、次のとおりです。
司　会：中武 裕幸（学生投票率100%をめざす会会長）
出席者：吉野 淳子（25歳・専門学校生）、野口 陽介（24歳・サラリーマン）、中井 洋介（24歳・フリーター）、小島 恭子（29歳・主婦、自営業）、中崎 透（24歳・大学生）、明石 恵理（21歳・ＯＬ）、三崎 サツキ（28歳・看護婦）【なお、年齢と職業は収録当時のものです。】

政治の話は余りしない

○司会　今日は、同じ二〇代の人たちが、政治や選挙についてどのように考えているのかを知りたくて鹿児島県から来ました中武裕幸といいます。

　早速ですが、先日、ある新聞に一七歳の女子高生の話が載っていて、その内容は、彼女は政治に結構興味があるそうなのですが、周りの友人とそういう話をすることは全くないそうです。これから社会人になっていく者として、政治がどのように私たちの生活に関係し、また、影響してくるのかをもっと知りたいそうなのですが、なかなか政治のことについて話す機会も少ないということは、実はそういう場を提供しない大人の責任でもあるのではないかという内容だったのですが……。

　もう私たちは二〇歳を過ぎて選挙権も持っているわけですが、自分たちにも当てはまることだと思います。ふだん、同僚や友達、家族とかと、政治の話をすることってありますか。

○吉野　家族とは、たまにニュースを見ながらどう思うかと話すことはあっても、余り会話は発展しないですね。

○野口　会社に行って、上司や同僚と話していても、やはり政治の話は出てこない。

○中井　趣味の話や遊びの話などがメインになっちゃって、自分からも友達からも政治の話題は……。

○司会　政治の話は話題にならないですか。

○中井　はい。

選挙に行きますか

○**司会**　政治の話はなかなか話題にならないということですね。

皆さんに聞きたいのですが、選挙には行かれますか。

○**小島**　三、四年ぐらい前から行くようになりました。このままだと日本とか、私たちの生活環境は一体どうなるのだろうと。また、環境問題も子供ができたことで関心が出て、選挙に行くようになりました。

○**中崎**　僕は大学に入ったときに引っ越しましたが、住民票を地元から移していないので、面倒くせぇやと思って行かないのが、理由の七割ぐらいです。

○**中井**　私は見かけによらず毎回行っております。というのは、政治や選挙に関しては結構うるさい親なので、二〇歳になって選挙権を持ったら選挙に行くのが当たり前だと。何日か前の新聞をちらちらと見て、つけ焼刃的知識で投票しながら、どうかなと思いながらいつも……。

○**吉野**　恥ずかしながら、二五歳にしてまだ一回も行ったことがないんです。それをクラスのみんなに話したら、非国民だとなじられました。周りで選挙に行っている人たちの話を聞くと、ポスターの顔が好印象だったからとか、余りその人のことを知らないで投票しているような気がして、適当に投票するというのが私は嫌で、だったら行かないことが私の意思表示かなと。

○**明石**　ちょっと地方の離れている親戚からいきなり電話がかかってきて、どこの誰々さんはいい人だから、ぜひ投票してあげてと……。ふだん連絡を取らない人にそれを押しつけられるのも違うかなと。それですごく嫌になって、結局放棄して行きませんでした。

○**野口**　候補者の公約を聞いて自分で納得して、その人に投票するのが一番かなと思いますが、選挙の最後の日になると、うちのまわりをぐるぐる、ぐるぐる……。そこでいっていることが「最後のお願いです」としかいっていないので……。

○**三崎**　立候補している人のいっている内容が、とりあえず議員になるためのものだから、人受けのいいようなことをいう。投票したい人がいないというのが正直なところで、それで最近は余り行ってないですね。

○**司会**　そんな口あたりのいい公約をいう人って、正直いって信用できますか。

○**小島**　やはり、そういうふうにいった人が、結局当選しているじゃないですか。ああ、やっぱりと。

○**野口**　公約が議員になるための手段にしか見えない感じがして。

○**三崎**　高齢者が日本を動かすところにいて、自分たちの意見が届かないというか。だから政治というものがより遠くに感じてしまう。

○**中崎**　政治家は、当選して何をするかが重要なところじゃないですか。

○**中井**　その人が実際当選して、変えると公約したことで、地元の住みやすさとか環境とかが変わったとは、全く感じられない。

○**野口**　テレビや新聞で取り上げられているのは、税金のむだ遣いだ何だかんだと、悪いことばかりじゃないですか。

税金について

○**司会**　税金のことなのですが、これについてちょっと……。

○**明石**　やはりお給料を見たときに、引かれる額が……。学生時代に何度もアルバイトをしていますが、アルバイトの時と引かれる額の桁が違うので、それを見て最初にすごくショックを受けて。

○**中崎**　消費税にしても、実際に国が出さなければいけない必要なお金のことを思ったら、もっとどんどん上がっていくと思います。だから、それを本当に必要なところに配分してほしいなと。

○**中井**　今僕は、税金のありがたみを痛切に感じていまして……。次の仕事が見つかるまで、職安に行って失業保険の手続をしたら、税金のおかげで、月に失業前の給料の六、七割をいただいているのです。

○**三崎**　私は看護婦なのですが、お年寄の患者さんで奥さんもご高齢だと、車いすを使うのに坂とかあると大変なので電動の車いすが欲しいが、ぜいたく品ということで今の保険では通らなかったりすることもあります。

○**司会**　税金の使われ方とか、自分たちの生活に関わってくることのすべてが、政治によって決められており、特に地方は、自分たちの衣食住に直接関わってきます。

○**吉野**　情報が入ってくれば、私も

自然ともっと興味を持つと思います。だから、そういうメディアみたいなのってないのかなと。

○**明石**　市の中のことって、すごく自分たちに密接じゃないですか。市から配布されるニュースや新聞を見ることで、ああこんなことやっているんだと、市長の考え方を知って、あ、政治は動いているんだなと。

○**司会**　ただ、投票するだけじゃなくて、その後、この人は公約を守ったかどうか、チェックしていくことも、僕たちには必要だと思います。

○**中井**　それはやはり投票した人の義務みたいな。

身近な問題

○**司会**　今度は、自分たちの身近な問題で気になることがありましたら。

○**明石**　私は父が病気をして、今仕事ができない状態なので、これから父がどんどん年をとり、仕事ができないままになったときに、やはり支えるのは特に私たち子供で、高齢者の介護は、どうなっていくのかなというのが今すごく不安です。

○**三崎**　日本は、子供がとても少なくなってきて、見直さなきゃいけない時期にきているのかなという気はするんです。

○**中崎**　社会制度と現状が、ちょっと肥満で服がパツンパツンになっていて、そろそろサイズを変えなきゃみたいな。

○**三崎**　そんな感じね。

○**小島**　私の祖母も介護を受けることになりましたが、最低限自分のことはできるのに、医療費もすごく優遇されているんです。私は子供を育てて、生活も苦しいのに補助はなく、ところが、まだまだゆとりのある人になぜか流れているという身近な例があって、こんなのでいいのかなって。

○**三崎**　お年寄りは医療費が全部免除になったりですとか、生活をしていくのに最低限のラインを保障されているような制度がとられていますが、そういう制度をつくったときにこの状況を本当に予測できなかったのだろうかと思います。

○**野口**　今、年金を納めていて、実際に自分に返ってこないのだったら、年金を払わないで、自分で貯蓄して、後で自分の身は自分で守るみたいな考えを持たないといけないんじゃないかなと。

○**明石**　税の負担が増えたとして、私たちが高齢者になったときに、ちゃんと活用されるという保障がないと、払っていくのもばからしくなる気はしますよね。

○**三崎**　本人には直接的なメリットは出てこないけど、先のことを見越してメリットが出てくるというような税金ができた場合、それがたとえ増税になっても反対意見は出ないような気がするんですね。

○**小島**　今は何とか普通に生活していますが、いろんな物を焼却したときに排出されるもので、オゾン層が破壊されているということについて、子供たちも小さいうちから、例えば分別収集をするにはどうすればいいという教育もちゃんとしていくとか。

○**吉野**　ふだん身近な習慣が、私は大切だと思います。ふだんからやっていると、やらなきゃという意識がなくてもやれるから、負担がかからない。負担がないというのは、ずっと続けてやれるということなのかなと思って……。

○**中井**　ごみの話が出て、すげぇいいたくなっちゃったからいうんだけれども、ごみというとカラスだね。特に生ごみの日なんか出すと、ビニールを突ついて荒らしちゃうし、うちの近所ですごく切実な問題です。むしろ、分別の問題以前に、カラスの件はすごく問題になっています。

○**中崎**　一〇代の頃は、五〇年後のことなんかどうでもいいって結構思いがちですが、年を重ねるごとに、やはり漠然と五〇年後とかに自分や周りの人はどうなっているのかなって、実感として徐々に出てくるものだから……。

○**野口**　実際に子どもたちを教育していく段階で、だんだんと政治について意識が変わってくれば、いい時代というか、いい政治になってくるのかなと。

○**司会**　これから政治に期待するもの、それに自分の未来なども重ねて、自分で何ができるかということについて何かありますか。

○**中崎**　今、美術作品をつくる作家になりたいのですが、文化に対するお金とかを国がもっと出してくれたらいいなと。周りが関心を持ってくれるということが、それは僕たちが続けるための糧にもなるし……。実際そこがないから、すごくいい物を作る人がやめていく状態で、そうす

ると日本で作家が生まれない。でまた文化というのは、お互いに下げ合っている感じがすごくして。

○**小島**　大きくこういう世の中にしたいみたいにいっても、じゃあ何ができるかとなると、なかなか個人ではないじゃないですか。自分の目の前にはこれがある、これがしたい、それをこうなってほしいというイメージがあって、自分も一つ何かができれば、一歩でも近づいたじゃないけれども、そういう気持ちが味わえれば、またやる気にもなるんじゃないかな。

○**吉野**　それは思いました。

○**小島**　余り大き過ぎることを、一個人がいっても、結局なかなか進まないと。

○**吉野**　私は余り政治とかに詳しくないので、どうなってほしいというのは全然わからない。でも、市で開催する介護の講習には、参加したいと思っている。自分のやりたいことが政治と接点があるというのが意識できた。だから、国がどうなってほしいというのもすごく大切だと思うけれども、自分がどうかかわっていくかもすごく大切なのだなとわかりました。

まずは自分がやらなきゃ

○**司会**　国と自分というのを別々に考えるのではなく、国の一部としての自分というのも絶対あると思うから。

○**中崎**　国というのはすごく流動的なものというか、完全にかちっと決まったものではなくて、それは日々変わっていくもので、何か固定された相手というよりは、自分も含んだ流動的なでっかい生き物みたいな何か。

○**明石**　政治もそうじゃないでしょうか。本当に自分たちはかかわっているけれども、政治という言葉だけはすごく遠いイメージがあるじゃないですか。これだけみんな立場が違う人が集まっているのに、誰もがそれぞれの状況でかかわっている。だから本当は全然遠いものではなくて、逆にいえば自分たちでどんどん変えていくこともできるものだし……。

○**中井**　一人の力はすごく小さいけれども、自分の力というのも絶対影響しているわけなのですね。そういうふうに考えていくと、選挙の一票の重みとか、すごく大事だと思います。みんながそういうふうにちょっとでも思うと、大分変わっていくんじゃないかな。

○**中崎**　まず自分がやらなきゃ、基本的に変わらないということなんだなという気がしますね。

○**中井**　まず、変わんないね。自分がやってないんだから。

○**小島**　自分の意識の持ち方ですよね。私は、出かけるときは、ペットボトルに入ったお茶を買うのをなるべくやめて、水筒を持っていく。すごくささいなことなのですけれども、大事なのは一人ひとりの意識。

○**司会**　今の社会に不満のない人って絶対いないと思うのです。一〇年後、二〇年後、どういう社会であってほしいなと一人ひとりが思うことがすごく大切だと思うんですよね。

○**明石**　一番大事なのは、一〇代後半から二〇代の意識なんじゃないかな。

○**三崎**　あとは自分の意見を伝えられる場所があれば、それを利用していくようにすることで自分たちも積極的な政治参加になってくると思います。

未来について考えていこう

○**明石**　なかなか政治のことを真剣に話す機会がないので、今日はとてもいい刺激になりました。

○**中崎**　政治の話も話してみると意外とおもしろいものだなというのが正直なところでした。

○**吉野**　もうちょっと勉強しなきゃなと思いました。

○**中井**　みんなが引き出してくれたみたいな感じがして、自分の中ではそういう意識が変わってきたかなと。

○**三崎**　政治になるべくかかわるというか興味を持っていきたいと思いました。

○**野口**　これから、政治について興味を持って、なるべく投票するようにしていきたいと思いましたね。

○**小島**　今まで自分でも気がつかなった自分を発見できる場なのだなと思ったので、子どもにもこういう環境を与えられたらすごくいいことだなと思いました。

○**司会**　率直な感想としては、新しい発見ばかりで大変おもしろかったです。今日の経験を持ち帰って、鹿児島でも他の学生とそういう話をしながら、未来のことについて考えていきたいと思います。

東西南北

第二〇回参議院選挙

投票を呼びかける活動が、各地で行われました。

①大学生が街頭啓発に参加・青森県

青森中央学院大学の学生一二人が、七月三日、青森市で街頭啓発に参加しました。投票率が低い若者に、同年代の学生が投票を呼びかけることをねらい、青森県明推協委員である同大学教授のゼミ生に協力を依頼しました。

②票に願いを（七夕編）・秋田市

秋田市では、秋田駅に設置した期日前投票所の隣に笹竹を置き、六月二六日から七月一一日まで、七夕にちなんだ啓発事業を実施しました。

啓発標語入り短冊を保育園などに配布し、園児に願い事を書いてもらいました。それを親子で飾り付けに来てもらうことと、あわせて期日前投票を周知することをねらいました。

短冊は、昨年の衆議院選挙などにも啓発活動に参加した秋田商業高校生徒会が作成しました。生徒たちは六月二六日に行われた街頭啓発にも参加し、めいすいくんの着ぐるみにも入って投票を呼びかけました。

③選挙サポーター・仙台市

今年五月に発足したばかりの選挙サポーターが街頭啓発に参加しました。六月二九日の活動には、一八歳から六〇歳までの一三人が参加し、繁華街の交差点で道行く人に投票を呼びかけ、啓発グッズ三、〇〇〇個を一時間足らずで配り終えました。

④大学生が啓発活動・八王子市学生代表者会議・東京都

八王子市内の一四大学、一三〇人で組織している同会議のメンバーが、東京都立大学、帝京大学キャンパス、周辺の駅などで、総務省が作成した啓発冊子「テレビ番組誌」を配り、学生に投票を呼びかけました。

同会議が八王子市選管に対して啓発活動への参加を持ちかけ、実現しました。

⑤インターンシップ・練馬区

練馬区は、区内にある武蔵大学とインターンシップの協定を結んでいますが、参議院選挙に臨んで学生七人を選管に受け入れました。学生の携わる業務は「選挙啓発活動の企画立案、実施」と「事務補助」で、大学生が自ら企画する若者への啓発活動の効果が期待されました。

インターンシップ生は、ポスター、パンフレットなどを作成するとともに、区内の飲食店などにポスターの掲示、パンフレットの配置などを依頼しました。七月二日には、武蔵大学キャンパスでパンフレットを配り、投票を呼びかけました。

また、川崎市でも、日本大学法学部の学生をインターン生として受け入れました。

⑥高校生が飛び入り参加・横浜市緑区

横浜市緑区明推協が、七月六日夕方、十日市場駅で行った街頭啓発に、高校生が飛び入りで参加してくれました。

明推協委員、選管職員など一五人が活動していましたが、たまたまその場に委員の知り合いの高校生と友達が居合わせ、自分たちから手伝うとい

ってくれたそうです。彼ら六、七人は、元気よく走り回ってティッシュを配ってくれました。

⑦中学生が街頭啓発に参加・平塚市

市立大野中学校生徒会の二、三年生一一人が、六月二六日、平塚駅周辺で行われた啓発活動に参加しました。

生徒たちが考えた標語「僕たちの未来につながるその一票」を書いた横断幕を先頭に、道行く人たちに、小型うちわなどを配りながら投票を呼びかけました。めいすいくんの着ぐるみ人形が参加しましたが、中に入ったのも中学生です。

活動は新聞、地域情報誌、ケーブルテレビにニュースとして取り上げられたほか、FMラジオ番組のインタビューも受けました。

⑧映画「一票のラブレター」上映会・宇部市

市選管、市明推協、青年法政大学OB会が上映実行委員会をつくり、六月一一日から一七日にかけて、大学、高専など四校で無料上映会を実施しました。宇部フロンティア大学では短大一年生全員、希望した二年生と大学生、約五〇〇人が参加しました。ねらいは「この映画が、民主主義と選挙について考えるきっかけ」になることです。

また、八月には山口県知事選挙が予定されているので、七月二四日、一般市民を対象に上映会（入場料三〇〇円）を開催しました。

⑨県下一斉街頭啓発・香川県

県・市町選管、明推協が、七月三日、県内三五カ所で一斉に街頭啓発を行いました。県下一斉啓発は初めての試みで、明推協委員、選管委員、選管書記ら約三四〇人が、キャッチフレーズ「行きまいよ投票へ！　行ったんな投票に！」を掲げて、各地で投票を呼びかけました。

⑩Tシャツメッセージコンテスト・福岡市

「あなたが国会議員に立候補したら、有権者に何を伝えたいですか」と、大学生、専門学校生から、未来のニッポンをテーマにメッセージを募集しました。応募作品九九点のうち三〇点を選んでTシャツにプリントして、七月一日から一一日まで西鉄天神駅にあるデパートで展示し、人気投票を行いました。

イベントのねらいは、政治に対する若者の考えを感じてもらい、見た人に選挙・政治の意義を考えてもらうこと、人気投票を選挙の模擬投票として体験してもらうことなどです。

⑪啓発FMラジオ番組に大学生・鹿児島県

鹿児島県選管は、若者をねらって、初めてラジオ番組を制作しました。学生四人とパーソナリティーが、どうしたら若者が投票に行くかなどをテーマに、若者への街角インタビューやアンケート結果も交えて、自由に話し合いました。

番組は二五分間で、七月三日午後八時半からFM鹿児島で放送しました。

⑫白石美帆さん、中山雅史さん

参議院選挙の啓発イメージキャラクターを務めた女優の白石美帆さんが七月六日に、サッカー選手の中山雅史さんは七日に、参議院選挙の投票を期日前投票で済ませました。

投票の様子は取材され、白石さんは「投票は難しいのかなと思われるかも知れないけど、コンビニを利用する感じで、気軽に行ってほしいです」と、中山さんは「若い人たちは選挙に興味が薄れているかもしれないが、自分の意思を示すことは大切なこと。スポーツに送る声援と同じくらい熱い気持ちを投票用紙に込めてほしい」と話しました。

まんがでわかる 明るい選挙

第1回 三ない運動

画／星野由美子

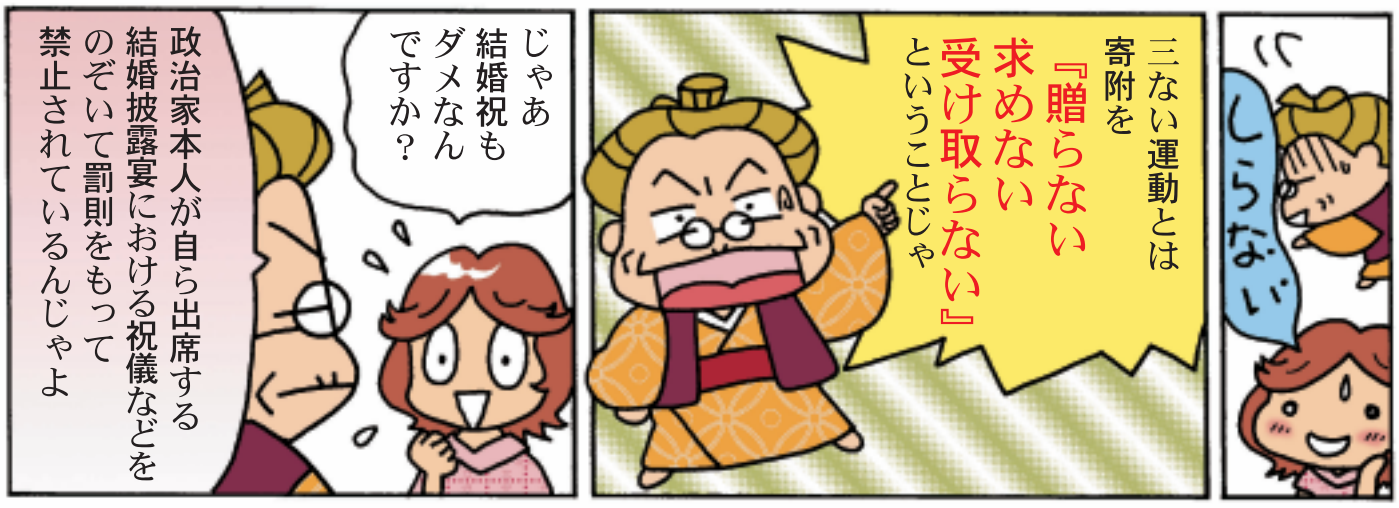
政治家（候補者、立候補予定者、現に公職にある者）と私たち有権者とのつながりはとても大切です。

しかし、金銭や品物で関係が培われるようでは、いつまでたっても明るい選挙、お金のかからない選挙に近づくことはできません。

「三ない運動」とは、こうした金銭や品物などを**「贈らない、求めない、受け取らない」**ということで、明るい選挙推進運動の重要な柱となっています。

公職選挙法では、選挙の有無にかかわらず、政治家が選挙区内の人に寄附を行うことは、特定の場合を除いて、一切禁止されています。後援団体や政治家の関連会社などからの寄附も、政治家の寄附と同様に禁止されています。また、私たちが政治家に寄附を求めると厳しく処罰されますし、冠婚葬祭の際の贈答も寄附になるので、気をつけましょう。

「三ない運動」でルールを守って、明るい選挙を推進しましょう。


しらない
三ない運動とは
寄附を
『贈らない
求めない
受け取らない』
ということじゃ
じゃあ
結婚祝も
ダメなん
ですか？
政治家本人が自ら出席する
結婚披露宴における祝儀などを
のぞいて罰則をもって
禁止されているんじゃよ

他には
こんなことが
禁止されておる
お中元
お歳暮
祝
花輪
病気見舞い
入学式
入学卒業就職祝
お祭りへの寄附や差入れ
へー
知らなかったね…

明るい選挙のために
私たちもしっかり
しようね!!
うむ
そうだね

結婚式当日ー
あ
先生！
なんとか
間に合ったよ

ではお祝いの歌を
おめでとぉぉぉ
歌じゃない
聞きたくない
耐えられない

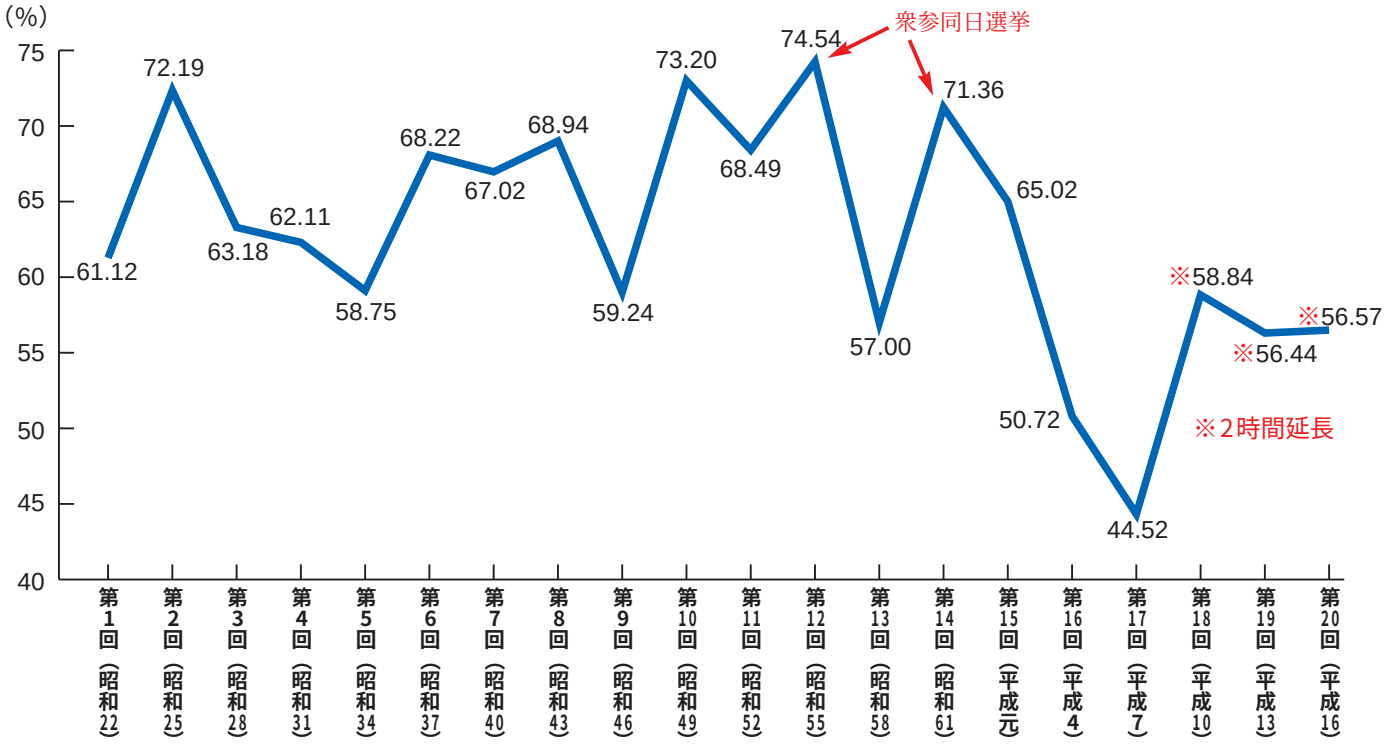
DATA

第２０回参議院議員通常選挙

◆投票率（%）

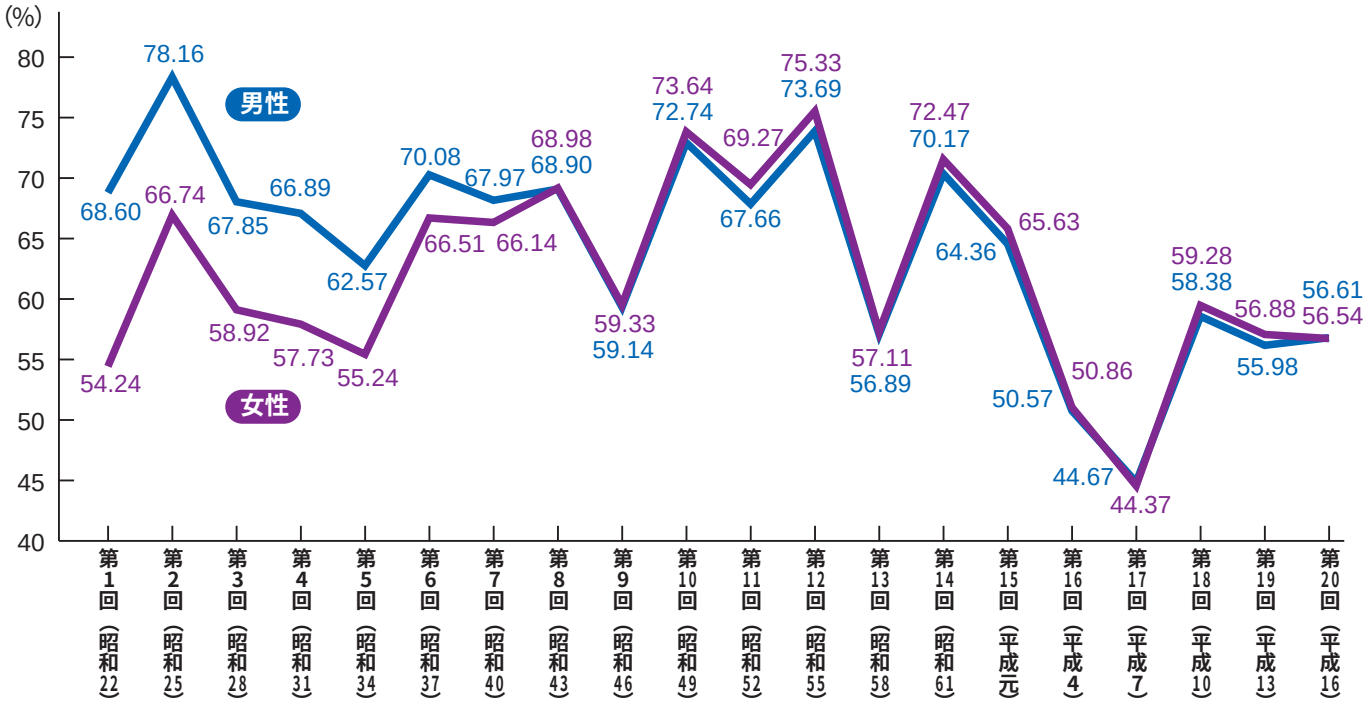
比例代表	56.54
選挙区	56.57

◆投票率の推移（地方区・選挙区）



※平成１０年７月１２日執行の参議院選挙より、投票時間が２時間延長になり、午後８：００までになりました。

◆男女別投票率の推移（地方区・選挙区）



DATA

◆候補者数

第20回	比例代表			選挙区			合計
	男性	女性	計	男性	女性	計	
新人	72	27	99	103	28	131	
現職	22	4	26	51	6	57	
元職	3	0	3	3	1	4	
計	97	31	128	157	35	192	320

◆当選者数

第20回	比例代表			選挙区			合計
	男性	女性	計	男性	女性	計	
新人	25	4	29	28	5	33	
現職	15	4	19	38	2	40	
元職	0	0	0	0	0	0	
計	40	8	48	66	7	73	121

◆候補者数、改選定数、競争率の推移

		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回
全国区	候補者数	246	311	234	150	122	107	99	93	106	112	102	93
	改選定数	100	56	53	52	52	51	52	51	50	54	50	50
	競争率	2.5	5.6	4.4	2.9	2.3	2.1	1.9	1.8	2.1	2.1	2.0	1.9
地方区	候補者数	331	252	213	191	208	221	233	212	199	237	218	192
	改選定数	150	76	75	75	75	76	75	75	75	76	76	76
	競争率	2.2	3.3	2.8	2.3	2.8	2.9	3.1	2.8	2.7	3.1	2.9	2.5
計	候補者数	577	563	447	341	333	328	332	305	305	349	320	285
	改選定数	250	132	128	127	127	127	127	126	125	130	126	126
	競争率	2.3	4.3	3.5	2.7	2.6	2.6	2.6	2.4	2.4	2.7	2.5	2.3

		第13回	第14回	第15回	第16回	第17回	第18回	第19回	第20回
比例代表	候補者数	191	243	385	329	181	158	204	128
	改選定数	50	50	50	50	50	50	48	48
	競争率	3.8	4.9	7.7	6.6	3.6	3.2	4.3	2.7
選挙区	候補者数	239	263	285	311	386	316	292	192
	改選定数	76	76	76	76	76	76	73	73
	競争率	3.1	3.5	3.8	4.0	5.1	4.2	4.0	2.6
計	候補者数	430	506	670	640	567	474	496	320
	改選定数	126	126	126	126	126	126	121	121
	競争率	3.4	4.0	5.3	5.0	4.5	3.8	4.1	2.6

◆在外投票

在外選挙人名簿登録者数	投票者数	棄権者数	投票率（%）		
			第20回	第19回	前回比較
80,885	20,551	60,334	25.41	29.94	-4.53

◆有権者数、投票者数、棄権者数、投票率（選挙区）

	有権者数	投票者数	棄権者数	投票率（%）		
				第20回	第19回	前回比較
北海道	4,639,372	2,864,167	1,775,205	61.74	58.47	3.27
青森県	1,193,593	643,460	550,133	53.91	51.00	2.91
岩手県	1,133,766	717,997	415,769	63.33	65.98	-2.65
宮城県	1,889,603	1,018,843	870,760	53.92	55.55	-1.63
秋田県	964,115	629,787	334,328	65.32	60.73	4.59
山形県	987,236	609,581	377,655	61.75	63.14	-1.39
福島県	1,674,771	1,010,568	664,203	60.34	60.88	-0.54
茨城県	2,392,018	1,197,724	1,194,294	50.07	50.18	-0.11
栃木県	1,605,279	818,467	786,812	50.99	53.85	-2.86
群馬県	1,620,993	940,174	680,819	58.00	58.74	-0.74
埼玉県	5,621,456	2,956,929	2,664,527	52.60	52.61	-0.01
千葉県	4,869,418	2,525,941	2,343,477	51.87	50.87	1.00
東京都	10,113,424	5,671,788	4,441,636	56.08	53.27	2.81
神奈川県	7,008,142	3,817,887	3,190,255	54.48	55.45	-0.97
新潟県	1,985,756	1,255,987	729,769	63.25	61.78	1.47
富山県	911,534	525,264	386,270	57.62	58.78	-1.16
石川県	944,744	536,695	408,049	56.81	59.54	-2.73
福井県	655,864	400,229	255,635	61.02	60.95	0.07
山梨県	703,801	435,046	268,755	61.81	63.05	-1.24
長野県	1,768,528	1,087,690	680,838	61.50	62.00	-0.50
岐阜県	1,683,897	999,584	684,313	59.36	58.88	0.48
静岡県	3,032,502	1,757,088	1,275,414	57.94	61.64	-3.70
愛知県	5,604,099	3,057,157	2,546,942	54.55	54.27	0.28
三重県	1,487,995	926,690	561,305	62.28	60.59	1.69
滋賀県	1,063,922	617,094	446,828	58.00	58.16	-0.16
京都府	2,093,483	1,143,007	950,476	54.60	55.55	-0.95
大阪府	7,012,129	3,729,310	3,282,819	53.18	53.33	-0.15
兵庫県	4,474,058	2,465,532	2,008,526	55.11	55.63	-0.52
奈良県	1,157,535	668,513	489,022	57.75	59.04	-1.29
和歌山県	865,857	505,893	359,964	58.43	58.93	-0.50
鳥取県	492,436	315,985	176,451	64.17	66.68	-2.51
島根県	607,970	418,737	189,233	68.87	68.61	0.26
岡山県	1,572,292	921,478	650,814	58.61	55.51	3.10
広島県	2,309,183	1,239,841	1,069,342	53.69	57.78	-4.09
山口県	1,233,005	768,300	464,705	62.31	59.86	2.45
徳島県	669,529	365,550	303,979	54.60	57.24	-2.64
香川県	833,534	460,135	373,399	55.20	54.00	1.20
愛媛県	1,211,821	683,057	528,764	56.37	58.32	-1.95
高知県	660,771	378,602	282,169	57.30	58.39	-1.09
福岡県	4,021,039	2,204,976	1,816,063	54.84	54.39	0.45
佐賀県	689,736	427,830	261,906	62.03	60.36	1.67
長崎県	1,200,535	721,989	478,546	60.14	59.57	0.57
熊本県	1,488,507	887,298	601,209	59.61	62.24	-2.63
大分県	992,284	640,767	351,517	64.57	64.54	0.03
宮崎県	938,061	582,897	355,164	62.14	62.36	-0.22
鹿児島県	1,416,460	890,576	525,884	62.87	57.44	5.43
沖縄県	1,011,473	548,647	462,826	54.24	58.36	-4.12
計	102,507,526	57,990,757	44,516,769	56.57	56.44	0.13

協会からのお知らせ

参議院選挙で投票を呼びかける活動に参加した皆様へ

酷暑の中、投票を呼びかけるボランティア活動、お疲れ様でした。

明るい選挙の啓発活動を進めるうえで、国政選挙は絶好のＰＲの機会でもあり、各地での 啓発活動により、有権者の「明るい選挙」への関心と理解が深まったものと思います。

この成果を着実なものにするため、ぜひ常時啓発活動に結びつけていただきたいと存じます。夏祭り、夏の成人式、秋の運動会などでの啓発活動、各種研修会への参加など、ご検討をお願いいたします。

明るい選挙推進協会では、秋口から研修会を開催します。皆様のご参加をお待ちしております。

明るい選挙推進協会のホームページについて

6月24日に、デザインを一新しました。

新しく「めいすいくんのぬりえ」を掲載しましたので、プリントアウトしてお使いください。めいすいくんのポーズ、めいすいくんのファミリー画像も掲載しましたので、広報誌、チラシなどにお使いください。

協会ホームページは、約210の選挙管理委員会ホームページとリンクしています。今後ホームページを開設されましたら、ご連絡くださるようお願いいたします。

めいすいくん ぬいぐるみキーチェーン

協会では、啓発グッズとして「選挙のめいすいくん」の小さくてかわいいぬいぐるみを作成しました。身長8ｃｍ、身幅10ｃｍで、キーチェーンがついています。バックに付けることができますし、デスクに立たせることもできます。ご利用ください。お申し込みは協会まで。

もくじ

新しい波 …… 2
政党政治の危機
ＮＨＫ部外解説委員　中島 勝 さん

特集
「若い世代」で組織づくりを
大野見村明るい選挙推進協議会 …… 4

お答えします！ …… 7
「選挙人名簿」

トークセッション …… 8
たまには話そう！
政治のこと、選挙のこと、未来のこと

東西南北 …… 12

まんがでわかる明るい選挙
三ない運動 …… 14

データ
第20回参議院議員通常選挙 …… 16

協会からのお知らせ …… 19

編集・発行●財団法人　明るい選挙推進協会
〒105-0001 東京都港区虎ノ門2丁目1番1号
☎ 03(3560)6266・6267
FAX 03(3560)6268
http://www.akaruisenkyo.or.jp/
akaruisenkyo@mua.biglobe.ne.jp

編集協力●株式会社 ぎょうせい

読者の皆さんからのお便りをお待ちしております。
本誌へのご意見、ご要望、質問等お寄せください。
お便りには、住所、電話番号、氏名、年齢等をご記入のうえお送りください。

選挙のめいすいくんが紹介する、各地の選挙啓発キャラクター

広島市

広島市の明るい選挙マスコット

いっぴょん&かっくん

◉いっぴょんは、投票用紙をイメージし、明るくクリーンな青空のようにきれいな選挙を呼びかけます。
◉かっくんは、空き缶をイメージし、ゴミの投げ捨てのない、きれいなまちづくりを呼びかけます。

表紙の紹介

登場人物の「行く?」、「行こっか」というせりふや、画面の下の部分に大きくレタリングされた「選挙です」というコメントなど、川西さんのとても優しい人柄が感じられます。人物がそれぞれ半分で切れている画面の使い方は、構成として、シンメトリーな扱いが、決して退屈にならないように工夫されていると感心しました。柔らかい雰囲気を持った作品ですね。

（審査評）
文部科学省初等中等教育局教科書調査官
田中 康二郎
（選挙 平成一五年一二月号より転載）

文部科学大臣・総務大臣賞作品

明るい選挙啓発ポスター
平成15年度

川西 郁美さん
広島県銀河学院高等学校3年